

The 2 Chome Times 2024年10月号

NO1のプレミアムストリートをめざして

NO317号



2024年・10月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス10月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★インフルエンザ予防接種

恒例となりましたインフルエンザ予防接種ですが、10月7日（月）の午後と、10日の午前中の2回に分けて、計112名の方々がこのワクチンを接種されました。昨シーズン（2023-2024）のインフルエンザは、国内で1年4カ月にわたって流行が続き、報告数は前シーズンの約4.2倍に達したそうです。世界的にも、陽性報告数は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）以前を上回る規模で拡大しました。今シーズンは、マスク着用が個人の判断となったことやワクチン接種率の低下、増加する海外との往来の影響でインフルエンザ感染リスクが高まると予測されています。コロナウイルスの恐怖が収まっている現在、気持ちの上でホッとしてみたい。日頃の感染対策が少し緩んでしまっている様子も見取れ、インフルエンザに思わぬタイミングで罹患するかもしれません。接種を担当して下さる明芳病院の鄒（ツウオ）先生はご覧の通り、笑顔が素敵で、針の傷みをほぼ感じさせない凄腕のドクターですから、今年はワクチン接種を見送られた方も予期せぬ罹患に備えて来年は是非ワクチン接種を受けて下さい。



★夢未来号の基礎ともなる「児童福祉の父」石井十次について

夢未来号では毎年、神戸市内の児童養護施設の小学校6年生の児童さんを沖縄に研修旅行にお連れし、沖縄と神戸の繋がりや、太平洋戦争での歴史的な出来事などを学んで頂いています。このような活動の考え方の基礎になるような献身的な精神で「児童福祉の父（日本で最初に孤児院を創設した）」と呼ばれているのが、江戸末期（慶応元年）に生まれた石井十次という人物です。宮崎県高鍋町に生を受け、17歳の時に岡山県の医学校に入学し、医師を目指しますが、21歳の時に診療所で貧しい母親の男児を預かり、そのことがきっかけで医師の道を捨て、児童福祉・教育事業に専念しました。明治20年に岡山県の三友寺に孤児教育会を設立しました。そして明治38年に東北地方を襲った冷害による大凶作で多くの農家が破産、離散し、その実態を知った石井氏は6回に分け、孤貧児825名を岡山に預かり、保護・育成し、その孤児の総数は1200名を超えたのだそうです。社会福祉制度の無い時代、多くの資金が期待できない中で、石井氏は独自の「幼児は遊ばせ、子は学ばせ、青年は働かせる」という「時代教育法」を編み出し、故郷の宮崎県茶臼山で原野を開墾し、岡山の多くの孤児を移住させ自立を図ろうとしています。石井氏の残した功績を知れば知るほど、深い感銘を受け、これ程の人物が存在したのかと驚かされます。石井十次のひ孫に当たる児島草次郎氏が理事長を務める社会福祉法人石井記念友愛社は2023年に宮崎県高鍋町に保育所と小規模児童福祉施設「友愛の森」を完成・運営し、災害発生時には緊急避難場所の役割も果たしています。その児島さんには10月2日、わざわざご来神頂き、街創り協議会・ファーストの合同例会でご講演頂きました。石井記念友愛社には石井十次資料館が併設されていますので、宮崎に旅行に行かれた際には是非お立ち寄り頂ければその偉大さに驚かれるはずですよ。



社会福祉法人 石井記念友愛社：宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1 Tel.0983-32-3916

石井十次資料館：Tel.0983-32-4612 月曜休館ですが、事前通知があれば開館（入館料 500 円）

★隈研吾流オノマトペで見る建築 姫路市立美術館で開催中

「ツツン」「パラパラ」「コツコツ」これらの擬態語を聞いて何をイメージしますか？ 7月に講演会で

お話をしてくださった隈研吾さんの展覧会が姫路で開催されています。「隈研吾流オノマトペで見る建築姫路編」と題して、隈研吾さん独特の感性で、姫路城や書写山圓教寺など、姫路の建築をオノマトペ（擬態語）で表現し、ご自身の手掛けた建築と対比して展示されています。隈さんのイメージでは、「姫路城はツンツン」「書写山圓教寺はパラパラ」「姫路市立美術館はコツコツ」と表現されていました。

隈研吾建築都市設計事務所では、大勢のスタッフ、関係者と世界各地で多くのプロジェクトが進行中ですが、それらの仕事でも「オノマトペ」を用いてイメージを共有しているのだそうです。建築というと、工学や数学といった具体的な数値で示されそうなものですが、隈さんたちは、抽象的でありながら、イメージが共有できる日本ならではの「オノマトペ」を活用して、人間らしさや自然との共生を実現する建築が出来上がっていくんですね。9月20日に執り行われた開会式



では、ポルトガルからオンライン参加した隈研吾さんから「姫路と世界をつなぐ展覧会になることを期待しています」というメッセージが届けられました。展示では、国立競技場など隈研吾さんの手掛けた作品の模型の実物を見ることもできます。姫路の建物と展示を一緒に楽しめる機会をお見逃しなく。

隈研吾流オノマトペで見る建築姫路編 会期：2024年9月21日～11月17日

会場：姫路市立美術館 詳しくはHPをご覧ください <https://www.city.himeji.lg.jp/art/>

★新店舗オープン フラワーショップ花次郎

2丁目に新しい店舗が2軒生まれました。1軒目は「フラワーショップ花次郎」さんで、もう一軒はおにぎり屋さんです。それぞれの店舗からご挨拶のメッセージをお預かりしておりますので、ご紹介致します。

【フラワーショップ花次郎】

「9月2日にピアザ神戸から移転しましたフラワーショップ花次郎です。季節のお花を中心に鮮度・種類・低価格を売りにしたお店です。フラワーギフトも多彩なお花で作りますので満足度には自信があります。皆様、お気軽にご来店くださいませ」とのことです。可愛くて素敵なお花ばかりですので、どうぞご覧下さい！

Tel.078-392-8726 <http://www.hanaya87.com> 定休日無し

★編集後記

激しかった能登の豪雨被害、亡くなられた方々には心からご冥福をお祈り申

上げますと共に、地震から立ち上がろうとされていた最中で、再度被害に遭われた皆様にはお掛けする言葉も見つかりません。どんなに用心していても災害や事故は突然やってきます。それを頭では分かっている、日々の忙しさに紛れて忘れてしまうのが私達です。阪神間は水害からは無縁な様な気がします、昭和13年には阪神大水害が起きたこともあります。その年の7月3日から5日にかけて、豪雨によって六甲山の各所で山腹が崩壊したため、各河川は土石流を伴う大氾濫を起こし、大きな被害をもたらしました。そして昭和



JR神戸駅付近まで流出した流木・土砂(神戸市中央区)

42年にも大水害がありました。その時は住吉川など六甲山系を水源とする河川の中上流域には174基の砂防堰堤が設置されていたことにより、市街地に流れ出す土砂の量は、昭和13年阪神大水害と比較して大幅に減少し、被害が抑制されたといえます。さらに、平成30年7月豪雨による雨量は、昭和13年、昭和42年の豪雨災害に匹敵するものでしたが、その時点で設置された砂防堰堤545基や斜面对策・樹林整備の効果により、人的被害はありませんでした。この様に近年では対策が進んできたとは言え、気象自体が荒々しいものになって来ているので、決して油断しない事が肝要ですね。

美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

